

センター校だより NO. 2

—特別支援教育センター校からの情報発信・ネットワーク—

年の瀬を迎え、各学校におかれては、新しい教育の推進や努力事項の目標達成に向けて一層邁進されておられることと御推察申し上げます。

さて、本校でも第1号発行からこの数か月間に運動会・体育祭、文化祭等の大きな学校行事が開かれ、多くの皆様に御参加いただいたことに心より感謝いたします。また先日は、皇學館大学社会福祉学部教授の太田正己先生、広島市教育委員会の主任指導主事、指導主事の先生をお迎えし、公開授業研究会を開催し、大変実りある研究会となりました。第2号では、それらの情報や移転開校に向けた準備作業の進捗状況、そして小・中学校の先生方から本校へお寄せいただいた生の声を御紹介いたします。

引き続き本校との一層の連携・協力をよろしく申し上げます。



広島市立
広島特別支援学校
校長 中尾 秀行

移転開校の夢は子どもと学校を変える！

—平成24年度移転開校をめざし、保護者や地域、教育委員会とともに歩む—



全体図（パース）



ボリューム検討模型



屋上と内部（一部屋根部分を取る）

本校の平成24年度の移転開校に向け、広島市は既に基本設計作業を終えているところですが、その後すぐに本校教職員や保護者に向けて、新しい学校の全体像が一目でわかる「ボリューム検討模型」と「パース（全体図）」を公開しました（上記写真）。11月半ばの学校協力者会議ではその資料を元に、具体的な施設設備について、大変活発に意見交換がなされるなど、移転開校に向けた期待の大きさを強く実感したところです。

現在、広島市教育委員会では年度内の実施設計完成に向け鋭意努力されておられます。今後も多くの解決すべき課題がありますが、関係者の皆様の御尽力の御陰をもちましてここまで進んできたことを大変うれしく思っております。この実績を基に、本校自らも教育内容をはじめ主体的に学校改革を推進してまいります。

目指せ！広島らしい、日本一、世界トップレベルの特別支援学校。

公開授業研究会 高まった授業改善力

— 82名の参加者が盛り上げた研究の成果 子どもに還元 —

この12月2日の公開授業研究会には、市内各学校はもとより県内の特別支援学校をはじめ、各関係諸機関からも大勢の参観者に御来校いただき、熱心に本校の取組を御覧いただきました。各学部を代表して小学部第2学年、第5学年、中学部第2学年、高等部第1・2学年の「染めグループ」が公開授業に臨み、また午後からは、研究発表会とその講評とともに皇學館大学社会福祉学部教授 太田正己先生に「一人一人の教育的ニーズに応じ、生きる力をはぐくむ授業づくり」のテーマで御講演を賜りました。今後の実践に活かす多くの御示唆をいただくことができ、今回の研究会で学んだことを糧に、さらなる教育実践の構築にステップアップさせていきたいと思っております。



小学部公開授業



中学部公開授業



高等部公開授業



太田正己先生の御講演

広島特別支援学校のこれからの期待する

—小学校・中学校の第一線で活躍されている先生方からの声届く—

大州小学校 特別支援学級担任 教諭 内田 典子

広島市立広島特別支援学校から大州小学校に転勤して、8年が過ぎました。貴校では、複数担任制であったため、それぞれ違う指導観等を一つの方向にまとめて調整し、実行する力が大切であることが良くわかりました。その調整し、実行する力がまさに今、「特別支援コーディネーター」に求められており、私自身、大変役立っています。

こうした小学校の現場ではなかなか経験することのできないノウハウを、広島市内の先生方に、特別支援学校で実施しておられる「教育相談会」や「生活支援相談会」「公開授業研究会」等で継続して、できれば定期的に開催し紹介していただきたいと思います。

今後もしろいろな機会を捉えて交流を広げ、広島特別支援学校が私たちの困ったときに、すぐに相談できるセンター校としての機能を持つ学校であってほしいと願っています。

井口明神小学校 情緒障害通級指導教室担任 教諭 小早川 知代子

最初に、特別支援学校から小学校教育研究会特別支援教育部会への参加人数が増えていることにとっても感謝しています。授業研等で、子どもの実態を見て、指導法を考えるとときに、「こんな指導はどうですか?」「こんな指導をしていますよ。」と教えていただけるのは、とてもありがたいことです。

特別支援学校の公開研究会の授業は、とても参考になります。授業1時間のイメージ、子どもの動きなどは、実際に見てその場で、手だてや工夫に気づくことが多いです。小学校では、通常の学級も特別支援学級も、特に発達に偏りがある子どもさんのニーズに正確に対応することが求められています。今後、「この子の指導について知りたい」というときに、小学校からSOSを出すことが増えていくのではないかと思います。よろしく願います。

牛田中学校 特別支援学級担任 教諭 宮野 晃子

中学校の特別支援学級の生徒は、学級や交流学級、学年、学校全体など、個別をはじめいろいろな集団で学習に取り組んでいます。また、中学校では特別支援学級のみならず多くの意味で支援を必要とする生徒が増えています。

中学校卒業後の進路選択として、実態に応じた個別の支援、卒業後を見通してのいろいろな取組等を希望して貴校を選ぶ生徒は多いです。また、特別支援教育のセンター校として広島特別支援学校は、小中学校の特別支援学級担任をはじめ、支援方法に疑問を抱いている教師にとっても様々な研修をさせていただける場所として期待されます。それぞれの学校には支援について多くの課題があります。地域全体の学校の教育力向上のため、交流を深め校内支援について具体的に継続的に相談できる場となっただけの事を期待しています。

段原中学校 情緒障害通級指導教室担任 教諭 大本 市郎

中学校現場では、特別支援教育を充実させる学級経営では、従来の単一手法のみでは、生徒対応は困難であり、心理、教育的な方法やグループアプローチ等に取り組むことが必要と考えています。

こうした中、貴校では心理検査等を活用した客観的なアセスメントやインフォーマルな観察法を含め、総合的にコーディネートし個別の指導計画の作成や障害の特性に応じた効果的な支援方法が蓄積されています。

今、中学校現場が広島特別支援学校に期待することは、それらのノウハウを活かした授業の中での支援方法や進め方の工夫等を互いに協議し、連携協力により一層の教育効果を上げるということです。また今後、広島特別支援学校において通級による指導（教育相談・心理検査等・理学療法）等の実施が可能となれば、より効果的であると考えます。今後の新たな教育改革に期待しています。

※御感想や御質問等を受け付けています。どしどし御連絡ください。連絡先は次のとおりです。

〒730-0051 広島市中区大手町4丁目4-4 Tel (082) 245-0304 小学部主事 友田まで

E-mail yougo-s@e.city.hiroshima.jp

※当通信は文部科学省の「平成21年度発達障害等支援・特別支援教育総合推進事業」を受けて発行しています。